note株式会社
2026年11月25日

記事の入稿から分析まで、ChatGPTやClaudeに頼める「note pro MCP(β)」の提供を開始



noteは、ChatGPTやClaudeとnoteをつなぐ「note pro MCP(β)*」の提供を開始しました。ふだん使っているAIツールに頼むだけで、記事の入稿や反響の分析など、noteの運用にかかわる作業ができます。対象は、法人向け高機能プラン「note pro」をご契約中の企業です。本機能の利用にあたって、追加の料金はかかりません。

note proのメリット・機能について詳しく知りたい方はこちら：https://hubs.ly/Q04FMx_V0

*MCP（Model Context Protocol）：AIツールが外部のサービスやデータとやりとりするための共通の規格。Anthropicが2024年に公開し、OpenAIなども採用しています

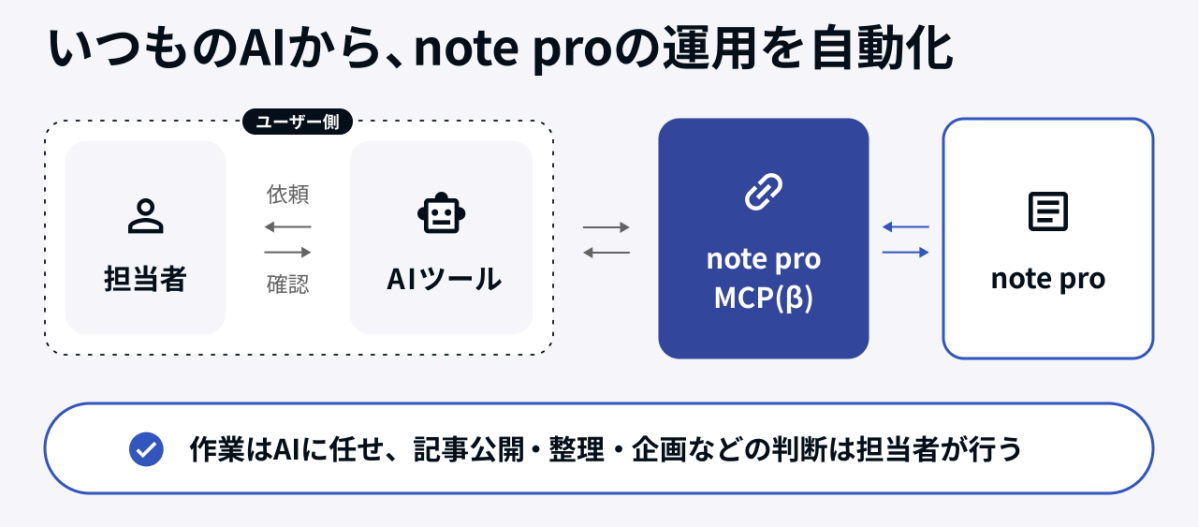
企画と一次情報の収集は人が、運用の作業はAIツールが

企業の情報発信には、コンテンツをつくること以外にも、原稿の取りまとめや入稿、反響の集計と報告など、たくさんの運用の作業がついてきます。note proを利用する企業からも、「社員から届いたWord原稿を、1本ずつコピーして貼り付けている」「毎月の集計や分析に時間をとられて、記事の改善まで手が回らない」という声が寄せられていました。担当者が1人だったり、ほかの業務と兼務していたりすると、次の企画がどうしても後回しになって、発信を続けられない原因になります。

生成AIの普及で、インターネット上のコンテンツは大きく増えています。そのなかで読者に届き、採用や問い合わせといった発信の目的につながるのは、現場での体験や判断にいたるまでの経緯など、その会社の人にしかない一次情報をもとにしたコンテンツだとnoteは考えています。

企画や一次情報の収集、そして反響をふまえた次の改善。担当者がこうしたことに時間を使えるよう、note pro MCP(β)を開発しました。

※note pro MCP(β)では、内容を確認しないまま記事を自動で大量に投稿することや、同じ内容の記事をくり返し投稿することなどを禁止しています。こうした投稿を確認した場合は、記事の非公開や削除、利用の停止などの対応をおこなうことがあります。詳細は、以下のヘルプページをご参照ください。
https://www.help-note.com/hc/ja/articles/64646253523609



note pro MCP(β)でできること

手元の原稿を、まとめて下書きにできる
Microsoft Word・Google ドキュメント・Notionなどで書いた原稿から、noteの下書きをつくれます。複数の原稿を1回の依頼でまとめて下書きにでき、画像の挿入や見出し画像の設定にも対応しています。公開する前には、AIツールが公開する記事を示して確認を求めます。

例：「添付したWord原稿8本を、それぞれ下書きにして。つくったらプレビューのURLをください」

マガジンの整理を、1回の作業で終えられる
公開済みの記事や予約中の記事を、自分が所有・共同運営しているマガジンに、まとめて追加したり、マガジンから外したりできます。

過去の記事を探して、リンクを入れたり、まとめて直したりできる
これまでに公開した記事のなかから、特定の言葉を含むものをまとめて探せます。関連記事へのリンクを入れたり、サービス名などの言葉をまとめて書き換えたりできます。依頼すれば、書き換える前に対象の記事と変更箇所を一覧で確認することもできます。

記事ごとの数字を集計して、報告のサマリをつくれる
記事ごとのPV・スキ数・読了率を一覧にして、前の月と比べたサマリをつくれます。

例：「先月公開した記事のPVと読了率を一覧にして、前の月より伸びた記事の共通点をまとめて」

先行して使っていただいた企業の声

株式会社ファンリード　https://note.funlead.co.jp/
社員から届いた約8本のWord原稿を、運用担当者1名でまとめて下書き化できました。アクセス分析もAIから直接行えるようになり、ブラウザ操作やCSVダウンロードにかかっていた手間が大きく減りました。

株式会社GENOVA　https://note.com/genova_pr
原稿を1本ずつnoteに入稿していた作業が数秒で終わるようになり、Canvaで作ったアイキャッチ画像の設定まで同じ画面で完了するようになりました。上期の振り返り資料も、ほぼ1回の指示でnoteのアクセス分析のデータをまとめたレポートが作成でき、記事カテゴリごとの強みを把握できました。

note pro MCP(β)の利用方法

- note proをご契約中の企業は、ご利用のAIツールの設定画面でnote pro MCP(β)を追加し、noteにログインして連携を許可すると使いはじめられます。オーナーに加えて、メンバー権限管理で登録したメンバーも使えます（操作できる範囲は、オーナーが付与した権限に従います）。
- noteへのお申し込みは不要です。note pro MCP(β)の使用に追加の料金はかかりませんが、ご利用のAIツールの利用料は別途必要です。
- 対応しているAIツールは、Claude（claude.ai／Claude Desktop）、ChatGPT（デスクトップアプリ）です。会社でAIツールを契約している場合は、管理者による設定が必要なことがあります。
- くわしい設定方法は、以下のヘルプページをご覧ください。
  https://www.help-note.com/hc/ja/articles/64646461497881
- 有料記事・有料マガジンに関する操作には対応していません。

note proの導入のご相談や資料のご請求は、下記のページをご覧ください。
https://hubs.ly/Q04FMx_V0

みなさんの使い方とご意見をもとに、note pro MCP(β)でできることを増やしていきます。使い方をnoteの記事に書いて、ハッシュタグ #noteproMCP をつけて投稿してください。投稿いただいた使い方は、note pro公式で紹介することがあります。

note

noteはクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、おもしろい人に出会えたりするチャンスが広がっています。2014年4月にサービスを開始し、約8993万件の作品が誕生。会員数は1313万人（2026年8月末時点）に達しています。

●URL：https://note.com/
●iOSアプリ：https://itunes.apple.com/jp/app/note-noto/id906581110
●Androidアプリ：https://play.google.com/store/apps/details?id=mu.note

note pro

https://pro.lp-note.com/
noteの法人向け高機能プラン。多くのひとが集まるnoteの街でオウンドメディアを簡単につくり、情報発信をつづけやすくするサービスです。「ブランディング」「リクルーティング」「ファンコミュニティ作り」「サブスクリプション」など目的はさまざま。メディア運営の充実したサポートを提供し、企業がポジティブなユーザーとつながって関係を深めるお手伝いをします。

note株式会社

わたしたちは「だれもが創作をはじめ、続けられるようにする」をミッションに、表現と創作の仕組みづくりをしています。メディアプラットフォームnoteは、クリエイターのあらゆる創作活動を支援しています。クリエイターが思い思いのコンテンツを発表したり、メンバーシップでファンや仲間からの支援をうけたり、ストアでお店やブランドオーナーが商品を紹介したり、note proを活用して法人や団体が情報発信をしたりしています。

所在地：〒102-0083　東京都千代田区麹町6-6-2
設立日：2011年12月8日　代表取締役CEO：加藤貞顕　コーポレートサイト：https://note.jp

【本件に関するお問い合わせ先】
note株式会社　IRお問い合わせ窓口：https://ir.note.jp/inquiry